

環境市民厚生常任委員会 1941 名の署名、当事者の声に耳をかさず

健康保険証の存続を求める請願を不採択

6月25日（火）に開かれた亀岡市議会環境市民厚生常任委員会で、1941名の署名とともに提出された「現行の健康保険証の存続を求める請願が、共産党議員以外の会派の反対で不採択となりました。

無保険扱いになる市民が生まれる危険が生じる

環境市民厚生常任委員会では、まず初めに中井亀岡社会保障推進協議会会長から、健康保険証の廃止は、期限ごとの更新申請がむずかしい高齢者、障害高齢者、障害を持っている方など、医療を最も必要としている市民が無保険扱いになる危険が生じることを、亀岡市におけるそれらの方々の具体的な人数をあげながら訴えました。

紙の保険証が安心して使えるから残してほしい

次に障がいを持つ子どもの母親である荒田薫子さんが陳述を行いました。荒田さんは自らの子育ての経験を語り、マイナ保険証について障がい者自身や支援を行っている事業所がどう受け止めているのか述べました。

障がい者の方の声として、「紙の保険証で行っているし、これの方が使いやすい。」「なくしたらどうすればいいかわからない。だからとても使うことができないし、怖くてつかえない。」「私たち障がいのある人のことは、考えてくれないように思う。」支援事業所の関係者の声として、「マイナンバーカードには個人に関わる全てが含まれており『カードの責任を負う』などということはとてもできない。」「障がい者の不利になることは避けなくてはならないので、現状のままの方が管理しやすく安全性も高い。」などの声を紹介し、現行の保険証の存続を求めました。

「社会のデジタル化の流れは後戻りできない」と請願を否決

委員会の討論及び採決では、委員の中には「自分の高齢の家族も紙の保険証が使い勝手がいいと言っている」「自分の家族に障がい者がおり、マイナカードをとることができなかった」「課題があることは認識している」など健康保険証の廃止・マイナ保険証への一体化のもつ問題点をあげる意見もありましたが、社会のデジタル化の流れは後戻りできない、今後不安を払拭し安心できる仕組みを作っていくなどと、国の方針に追随した無責任な意見を述べ、共産党議員以外の反対で請願を不採択としました。

意見陳述を終えて

荒田薫子

今大切に使っている「保険証」が、12月にはマイナンバーカードに一本化されることに大変不安感を持っている人は多くいますが、特に老人や障がい者には自分の命と健康を維持する為の必需品です。使い慣れているからこそ安心して通院できています。今回の意見陳述には障がい者本人や福祉事業所関係の人達に意見を求めて、彼等の心からの想いを伝えました。特に障がい者本人達の不安感はい些細な内容にも及んでいます。その想いが「今の保険証でなぜいけないのか？」というものでした。社会の様々な変化に対応する力も、障がい者は我々健常者よりも弱さがあるので、不安感もとても大きいのです。「障がい者達のその不安感に、行政に携わる人たちに寄り添ってもらえたら」という想いがまだまだ届かなかったということに淋しさを感じました。障がい者のささやかな声を、今後もより多くの人達に伝えていくことを進めていかなくてはと、改めて思いました。

